

せいけん  
詩集

第七篇

作：近藤せいけん

「百転び 百一起ぎ」

ななころ 七転び やお 八起ぎ

ななかいころ 七回転んでも

はちかいめ お 八回目に起きれば

いいんだ

「へえ そんなに

すく 少ないの」

「どうして」

「私もつと

なくさんころ 沢山転んで いるよ」

「あ、そう」

なくさん 沢山 転んで

なくさん 沢山 起き上がる

ひゃくころ 百転び 百一起ぎ

じんせい おもしろ 人生つて 面白い

「はたち二十才かどでの門出」

あたら新しい年とし 一月いちがつ

わか若い芽めの門出かじで

この美しい国うつく

日本にほん

生まれて来てう

よかつた

生きる喜びいき

豊かな心ゆた

故郷愛こきやう

人絆ひと

二十の君に送るはたち



## 「待つ」

私はあなたが来るのを

待っています

なかなか来ない あなたを

あなたは

気まぐれなのですか

へそ曲がり なのですか

私はいつまでも あなたを

待っています

なかなか来てくれない

あなたを

早く来てください

待っている

あなたの名は

「幸福という名です」

「道」<sup>みち</sup>

一歩<sup>いっほ</sup> 一歩<sup>いっほ</sup> 登る<sup>のぼ</sup>

足元<sup>あしもと</sup>を 踏み固め<sup>ふみかた</sup>

やがて 頂き<sup>いただ</sup>に 達す<sup>た</sup>

夢<sup>ゆめ</sup> 希望<sup>きぼう</sup> 栄冠<sup>えいかん</sup>

人生<sup>じんせい</sup>の

道<sup>みち</sup>は開かれる<sup>ひら</sup>

あと 一歩<sup>いっほ</sup>で

君<sup>きみ</sup>の道<sup>みち</sup>は 開かれる<sup>ひら</sup>

あと 一歩<sup>いっほ</sup>で

